

国営備北丘陵公園管理運営ビジョン検討懇談会 管理運営ビジョンについて

一部非公表とした資料あり

1. 管理運営ビジョンの目的・位置づけ	……P2
2. 国営備北丘陵公園の整備や管理の概要	……P5
3. 公園を取り巻く現況と将来予測	……P15
4. 公園の現状のポテンシャルと課題、望ましい管理と取組の方向性	……P18
5. 管理運営ビジョンの検討の進め方 (委員の皆様からご意見を頂きたいポイント、今後の検討スケジュール)	……P22

社会環境・ニーズ等の変化に対応しつつ、本公園を持続的に運営するため、今後20年の中長期的に目指すべき管理運営の方向性として、公園利用者に引き続き提供すべき価値・体験・サービスや、今後一層伸ばしたいサービス、本公園の果たすべき地域活性化の役割等について具体化し、公園管理の担い手や公園づくりに関わる周辺地域が共有することを目的に策定する。

管理運営ビジョンの位置づけ

国営備北丘陵公園 基本計画

公園整備の基本理念・基本方針を定めた計画

- 中国地方における広域的なスポーツ・レクリエーション・文化等の多様な需要に対応する国営公園としての計画
- 公園整備にあたっての公園の基本テーマ・基本理念・基本方針を示すもの
- 各エリアにおける整備内容・活用方針を定めており、今後の管理運営においても前提となる

国営備北丘陵公園 管理運営ビジョン

“公園管理・運営のみちしるべ”

- 20年単位の管理運営の方向性を定める中長期的指針
- 社会環境・ニーズ等を踏まえ中長期的な目標や方向性を共有することで、公園関係者が共働・共創しながらあるべき姿を実現するみちしるべとする

具体的な取組・重点施策

国営備北丘陵公園 管理運営プログラム

“公園管理・運営の具体的施策”

- 社会資本整備重点計画を踏まえ、管理運営における公園管理者の取組みとして、5年単位の中期的かつ具体的な施策（重点事項）を定めるもの

20年後のすがた

PDCAサイクル継続

DO

ビジョン・プログラムに基づく管理・運営

CHECK

進捗管理・施策効果の確認

ACTION

公園を取巻く状況に応じた、方向性・中長期的なすがたを随時見直し・更新

基本計画においては、周辺環境との調和と連携を図り、森と湖に囲まれた緑豊かな自然の中で、中国地方の歴史や文化のふれあいや多様なレクリエーション活動を通じて、人間性の回復と向上の場となるような公園となることが定められており、**今後の公園運営においても基本テーマ・基本理念・基本方針を継承し、発展**していくことを基本とする。

基本計画

- 昭和58年3月に策定（平成2年9月に一部変更）
- 公園の整備に係る基本テーマ、4つの基本理念と5つの基本方針が示され、各エリアにおけるコンセプト・施設の整備方針・活用方針が示されている（土地利用計画）
- 平成2年には工事に先立ち、埋蔵文化財の包蔵が確認されたため、文化財の保存・活用の観点から基本計画の見直し（施設配置エリア等）を実施した。当該変更時に「文化の里」（現「ひばの里」）が公園の中心に位置付けられ、文化的特徴として明確化された

基本テーマ

- ・ 「ふるさと・遊び」

基本理念

- ① 緑豊かな自然へのいざない
- ② 中国地方の歴史や文化とのふれあい
- ③ 多様なレクリエーションへのしたしみ
- ④ 周辺環境とのつながり

基本方針

- ① 国兼池を中心とした湖畔景観や、丘陵景観等の自然を生かした公園
- ② 中国地方の古い文化の継承や、新しい文化をはぐくむことのできる公園
- ③ 四季にわたる多様なレクリエーションに対応できる公園
- ④ 中国地方の全域から利用できる公園
- ⑤ 地域とのふれあいのできる公園

管理運営ビジョンは、公園の基本理念等を踏まえつつ、現在の社会環境・ニーズ等の変化に対応した公園の持続可能な運営と魅力向上を念頭に置いたものとし、以下の構成を想定。今後、取組施策・実現に向けた進め方を検討していく。

管理運営 ビジョン

- 令和7年3月策定予定
- 公園の持続的な経営に向け、公園利用者に提供すべき価値・体験・サービス等の内容や、今後一層伸ばしたいサービス、本公園の目指すべき地域連携等について具体化することで、公園管理の担い手、公園づくりに関わる周辺地域が共有し、本公園のさらなる魅力向上を推進していくための「公園管理・運営のみちしるべ」

構成要素（案）	記載事項概要（案）	
ビジョンの位置づけ・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョン策定の目的・狙い ・既存計画との関係 ・ビジョンの運用方法 	
現状分析・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の概要 ・公園の特性（ポテンシャル・課題）・利用状況 ・公園周辺の状況 ・公園へのニーズ、課題 等 	現状と課題の分析
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ・20年後のすがた ・ターゲット・ブランディング ・コンセプト・ストーリー 等 	
ビジョンの実現に向けた進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンの推進体制 ・ビジョン関係者の役割分担 ・ビジョン更新の仕組み 等 	PDCAを回しながらビジョンを実現していくための仕組み
取組施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンの実現による効果・目標・発展イメージ ・取組方針・施策の方向性 等 	ビジョンを実現するための取組

2-1 基本計画に基づく公園整備概要

基本計画では、「**こころゆたかな時間の過ごし方ができる**」公園として、**8つのエリア**を設定。それぞれに利用計画を設定し、整備を実施している。

基本計画における本公園の評価・提供する価値

- 国兼池とアカマツ林を主体とし、穏やかな自然とそれと溶け込んだ人々の生活が展開されてきた心安らく中国山地の風土を活かした心豊かな時間の過ごし方により、現代社会の生活をより豊かなものにする「ハイセンスな余暇ライフスタイル」を提案していく。
- 管理運営にあたっては、施設の維持・管理、利用者の安全管理等の運営管理に加え、各施設が年間を通じて利用され、**中国地方の古い文化の継承や新しい文化の育み、地域とのふれあいができる公園としての機能が発揮される**よう、イベントの広報・企画・実施を行い、利用増進を図るものとしている。

基本計画におけるエリア毎の整備計画

エリア名	基本計画時点の整備の考え方
①北入口センターエリア ⑤中入口センターエリア (計画時は「センターエリア」)	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園利用者が集い憩える場、公園利用と公園管理の拠点 ● 北入口はメインエントランスとし、市街地からのアイストップとなるシンボル性・国兼池の眺望を活かした宿泊拠点
②ひばの里 (計画時は「文化の里」)	<ul style="list-style-type: none"> ● 伝統的な和風空間の中で地域の伝統文化・工芸・日本古来の生活の知恵に触れ、楽しみながら認識、体得し、豊かな生活を実現するきっかけとなる余暇を過ごせる場
③つどいの里 (計画時は「集いの森」)	<ul style="list-style-type: none"> ● 子供から高齢者まで年間を通じ利用できる活動的なエリアで、誰もが気軽に体力や健康づくりができる場
④水辺の里国兼池 (計画時は「やすらぎの湖」)	<ul style="list-style-type: none"> ● 国兼池と湖畔の水や自然を生かしたやすらぎの場 ● 水辺・水上レクリエーションを行い、ゆったりと静かな時間を過ごすことができる場
⑥みりの里 (計画時は「四季の丘」)	<ul style="list-style-type: none"> ● 花木・果樹園芸にふれ、その収穫・加工の楽しさを体験することで、地域産業・自然生産物のよさを再認識し、利用者自身の生活の中へ取り入れるきっかけの場
⑦備北オートビレッジ (計画時は「星のふる丘」)	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園の野外活動や野外宿泊利用の拠点 ● 里山の自然とレクリエーションによりコミュニケーションを深めながら野外活動の楽しさを認識し知識・技術を体得する場
⑧いこいの森 (計画時は「いこいの森」「ふれあいの里」)	<ul style="list-style-type: none"> ● 丘陵景観を生かし、人々が集い、憩い、遊び、自然を観察し、自然とふれあうことができる場 ● 地域産業である農林・畜産業に触れ、その技術を体験することで、体験した知識や技術を活かしより豊かな生活とするきっかけの場 ● 埋蔵文化財にふれ地域の歴史を再確認できる場

2-2 エリア毎の整備の現況

一部エリアの再編を行いながら順次開園し（平成24年全面供用）、現在は8つのエリア（①中入口センターエリア、②ひばの里、③つどいの里、④水辺の里国兼池、⑤北入口センターエリア、⑥みりの里、⑦備北オートビレッジ、⑧いこいの森）で年間を通じた様々なイベントが開催されている。
(詳細は参考資料P8~17参照)

⑦ 備北オートビレッジ

本公園の**野外宿泊利用の拠点**となるキャンプ場やコテージ等があり、アウトドアライフを体験することができる。

① 中入口センターエリア

本公園で公園利用の**案内、飲食、物販施設**があるエリア。**花の広場**では、季節毎の花風景を楽しむことができる。

⑥ みりの里

季節を彩る**花や果実の景観**を楽しめるエリア。スイセンガーデンやピクニック広場がある。

⑤ 北入口センターエリア

本公園の入り口で、**エントランスセンター国兼等、公園利用の案内、飲食、物販施設**がある。

⑧ いこいの森

公園内で最も**起伏に富んだ地形**を有し、自然環境保全の観点から**豊かな自然を残して**整備されたエリア

② ひばの里

公園の中心施設として、**中国山地の暮らしと懐かしいふるさとを体験**できるエリア

③ つどいの里

本格的な「グラウンドゴルフコース」、広大な芝生広場、「ちびっ子ゲレンデ」、大型複合遊具などがあり、**林間のスポーツ・レクリエーション**やイベント、遊びの場として人々が集うエリア

④ 水辺の里国兼池

県内最大の**ため池**で、地域の農業用水源となり、**利用者に安らぎを与える水辺空間**としてのエリア

年間イベント

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
備北花ピクニック 	初夏の花物語 	備北夏まつり 	備北コスモスピクニック 	備北コスモスピクニック 	備北イルミ 	冬咲きぼたん展 	備北花ピクニック 				

2-3 本公園の果たしてきた役割

本公園では、里山の自然環境・地域文化を活かした様々な環境の提供・活動を通して、国営公園としての機能を発揮し、地域に貢献してきた。これらの機能は主に「**自然・環境・文化**」、「**まちづくり・観光**」、「**暮らし・Well-being**」の3項目に大別され、6つの柱に分類される。

自然・環境・文化	自然環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> 里山環境や国兼池の景観を生かした計画・整備 「生物多様性保全上重要な里地里山」として希少種の保全、生育場を提供 	 <p>⑧いこの森 -エヒメヤマメの保全</p>
	歴史文化の保全活用	<ul style="list-style-type: none"> 里山景観を再現したエリアを整備し、里山文化の保存・継承 「たたら製鉄」や地域の年中行事等を体験プログラムの提供 	<p>②ひばの里 -たたら鉄づくり体験</p> 
まちづくり・観光	周辺地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域の情報発信やイベント開催など、庄原市の地域活性化に貢献 周辺地域住民のボランティアを育成し、来園者と地域とのふれあいの場を提供 	 <p>③つどいの里 -野外ライブ</p>
	観光の振興	<ul style="list-style-type: none"> 大規模～地域密着型まで多数のイベントに開催場所を提供 花修景・イルミネーション等、多様なサービス提供により地域観光に貢献 	<p>花火大会の様子</p> 
暮らし・Well-being	公園利用者の健康増進	<ul style="list-style-type: none"> 公園各所で季節を通じた多様なアクティビティの機会を提供し、公園利用者の健康増進に寄与 	 <p>④国兼池 -フィッシングエリア・サイクリングコース</p>
	防災性の向上	<ul style="list-style-type: none"> 庄原市指定緊急避難場所、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）の前線基地・活動拠点に指定 総合防災訓練や避難訓練場として防災性向上に寄与 	<p>庄原市総合防災訓練の様子</p> 

2-4 公園全体に対する利用者の評価

全エリアを通して、**来園者満足度は9割を超過する高い水準**で、施設充実度に関して多くの肯定的な意見が寄せられている。一方で、来園者による改善要望は、園内での移動に関する要望を始めとして一定数挙げられており、継続的な改善活動が求められる。

エリア	来園者満足度	肯定的な意見	改善要望
1 中入口センターエリア	95.8%	- 「花の広場の展望台にスロープがあり、上がりやすかった」	- 「レンタサイクルの順番待ちに呼出ベルを導入し、待機する人が他のことを楽しめるようにすると良い」
2 ひばの里	95.1%	- 「 様々な体験が出来て楽しい 」 - 「 公園に来たらいつも寄っていて、お茶を飲んでゆったりと出来るので満足している （季節のおもてなし）」	
3 つどいの里	95.6%	- 「林間アスレチックは広くて密にならず子供たちが楽しめた」	- 「グラウンドゴルフコースが昔と比べて雑草が多くなった」
4 水辺の里国兼池	96.6%	- 「カナディアンカヌーを楽しめて良かった」	- 「 ベンチをもう少し設置してほしい 」
5 北入口センターエリア	95.4%	- 「サイクリングが面白いので、コースが増えるとよりよい」 - 「ドッグランが良いので、犬同伴できるカフェがあるとよい」	- 「サイクリングコースに自販機が少ない」
6 みのりの里	95.6%	- 「 スイセンの種類が多さに驚いた 。苗を販売してほしい」	- 「 花がどれくらい咲いているのかHPで知りたい 」
7 備北オートビレッジ	95.1%		- 「 配置を改善し、デイキャンプ等最近のレジャーに合わせた用途で使えと良い 」
8 いこいの森	94.7%	- 「普段見れないカブトムシやクワガタに触れることができた」	- 「散策路で行き止まりがあった。（2020年10月時点）」

全体評価

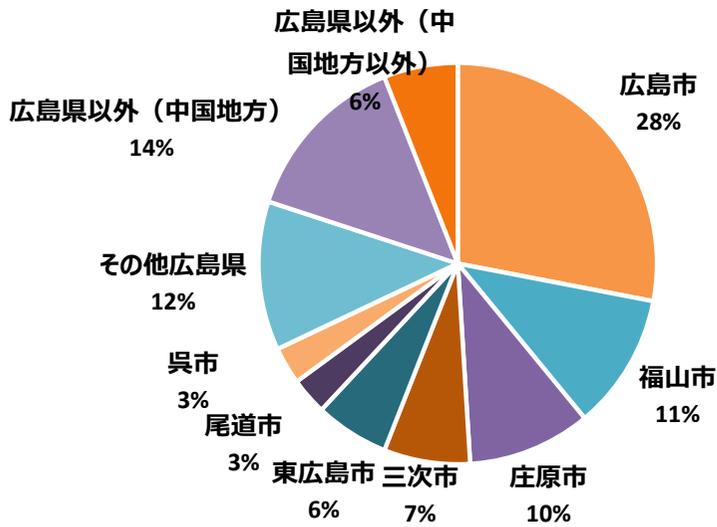
95.4%

- 施設充実度
 - 「遊具やドッグラン、花の広場、グラウンドゴルフ等、**様々な施設が充実している**」
 - 「イベントや体験が催されており、子供も大人も楽しめる」
 - 「日中は公園で遊び、夜はイルミネーションや花火と、**一日中滞在して思い出が作れる**」
- 施設管理・品質
 - 「**様々な工夫や行き届いた運営**があり安心して利用できる」
 - 「今後もこの料金で現在の通り行き届いた管理で公園を続けて欲しい」

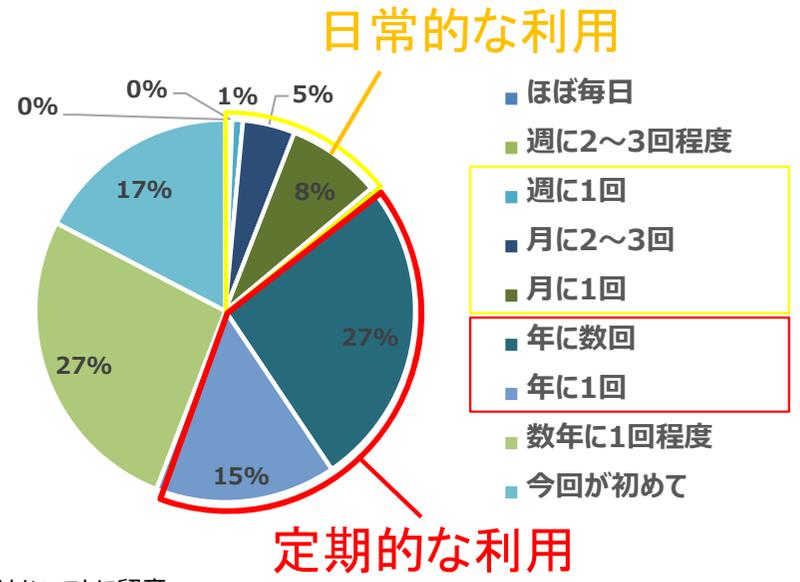
- 園内移動
 - 「公園が広くて**園内の移動が大変**」
 - 「自転車で行けない施設がある」
 - 「駐車場の位置が施設から遠くて不便」
 - 「繁忙期の周遊バスやロードトレインを増発してほしい」
- 園内地図・誘導看板
 - 「**園内誘導看板が分かりにくく、自分達の位置が分からなくなる**。施設間の移動所要時間を明示してほしい」

来園者数は年間45~50万人程度で頭打ちとなっており、うち、80%が広島県内（97%以上が中国地方在住者）となっている。来園頻度は月に1回以上～年に数回程度がおよそ40%を占めており、来園者の約半数が定期的な利用であることが伺える。

入園者の居住地比率（令和5年度）

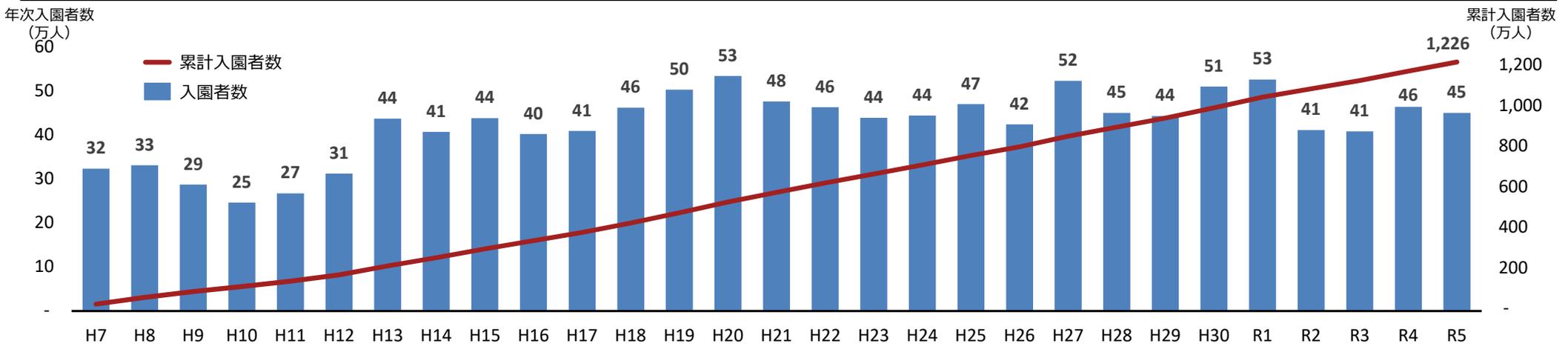


来園頻度別の来園者割合（令和5年度）



「国営備北丘陵公園 令和5年度公園利用実態調査（春～秋）」に基づく。
当該調査は各四半期1回、イベント開催期間における平日・休日（各1日）に実施するアンケート調査であり、全数調査ではないことに留意。

年間来園者数の開園時からの推移（万人）



「備北丘陵公園管理運営プログラム（令和3年度-令和7年度）」、「令和4年度業務報告書」、「令和4年度収益施設収支実績」、「令和4年度備北丘陵公園長寿命化計画策定業務」より作成

2-9 公園管理運営上のリスク・課題（まとめ）

前項までを踏まえると、現状のままの公園管理運営を続けた場合のリスク、課題は以下のように整理される。

今後の公園運営においては、公園の活性化に向け、公園の持つ価値を向上させ、集客力向上・消費の増加につなげ、さらなる価値向上につながる好循環を形成する必要があるのではないかと考えられる。

現状のままの公園管理運営を続けた場合

公園の価値	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の老朽化の進展・一部供用中止 ● 人件費の高騰 ● 老朽化、更新修繕費の増大による維持管理費の制約に伴うサービスの質の低下・公園の魅力低下
集客	<ul style="list-style-type: none"> ● 来園者数の頭打ち ● 既存集客層の固定化 ● 人口減少による来園者数の減少
園内消費	<ul style="list-style-type: none"> ● 収益施設の利用率の減少 ● 園内消費の低下

今後の公園管理運営に望まれる対応

- 利用者ニーズに応じたメリハリある管理運営・積極投資
 - 地域との積極連携
 - 公園の魅力・価値の継承・向上
-
- 地域と連携した効果的なブランディング
 - 園内サービスの充実
 - 地域活性化への寄与
 - 上記による新規入園者の獲得
-
- 園内の多様なエリアを活かした消費機会の創出
 - ニーズに応じたサービスの提供による高付加価値化
 - 収益拡大・再投資によるサービスの質の向上

👉 公園の魅力や地域貢献の低下へのリスク大

👉 民間の創意工夫も生かしながら持続的な公園として経営

3-1 本公園を取り巻く状況・将来予測 -自然・環境・文化-

現状

四季の変化に富んだ自然環境

- 冬季は積雪・夏季は猛暑
- 丘陵と森林に囲まれた**自然豊かな環境**。園内では**希少種が生育**
- 公園内は起伏に富んだ地形で**広島県最大のため池である国兼池**を湛え、カヌーやグラウンドゴルフ、ツリークライミング等多様なアクティビティを提供

カヌー体験



園内で成虫となったオオムラサキ

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高気温(°C)	5.6	7.2	11.9	18.9	23.1	25.9	29.1	30.6	26.3	20.6	14.5	8.5
平均気温(°C)	0.8	1.7	5.3	11.3	15.9	20.0	23.8	24.6	20.3	13.7	7.9	2.9
最低気温(°C)	-2.8	-2.7	-0.4	4.2	9.5	15.0	19.8	20.3	15.8	8.6	3.0	-1.1
降水量(mm)	64.3	72.4	101.6	106.0	144.0	202.8	249.1	127.0	173.5	86.1	69.6	67.3

<https://weather.time-j.net/Climate/Chart/Shobara>

周辺地域には多様な歴史的資源・豊かな里山風景・文化が残存



庄原市内の主な歴史的資源



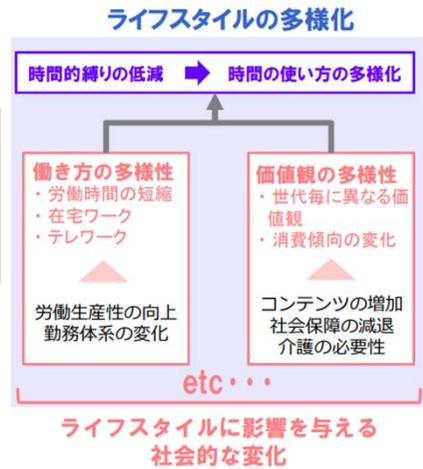
古民家残存率
全国 **3位**
(H30年)

- 里山景観(古民家の里)や山岳信仰に基づく日本神話の舞台
- 里山やたたら製鉄の風景を公園内に再現・展示・保存を実施

将来

安心・安全・居心地よく過ごせるサードプレイスの提供

ライフスタイルの多様化の進展、物質的豊かさより**精神的豊かさへの指向**により、居心地の良い場所としてのサードプレイスの確保が重要に



地域特有の歴史・文化の継承、活性化に寄与

担い手不足

継承を阻む要因

需要の減少

資金の分散

公園でのイベント・体験を通して、文化に親しむ場を提供し、地域の文化のネットワークへの参画を促し、将来の担い手を確保する



例

平成7年開園記念行事より一貫して継続している「たたら鉄づくり体験」には、「さとやま古代たたら倶楽部」が日刀保たたら(公財)とネットワークを形成・連携しながら継承してきた行事

自然教育・実証研究の場の提供



- 気候変動や自然災害、人間の健康などの社会課題を自然を守り・回復することを通して、根本的な解決を図るNbSの考え方が重要に
- 周辺地域・産官学連携により、生態系へのアプローチを通じた社会課題の解決の実証実験、自然研究の場として公園へを役立てていく

3-2 本公園を取り巻く状況・将来予測 -まちづくり・観光-

現状

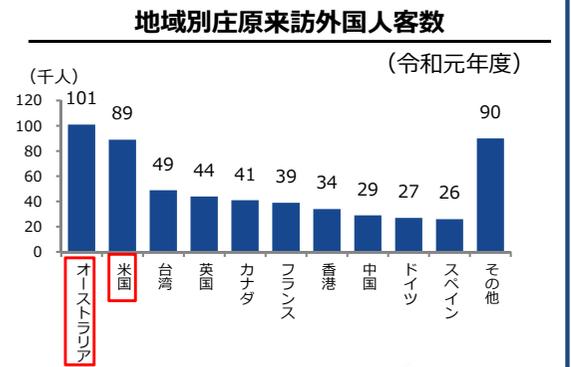
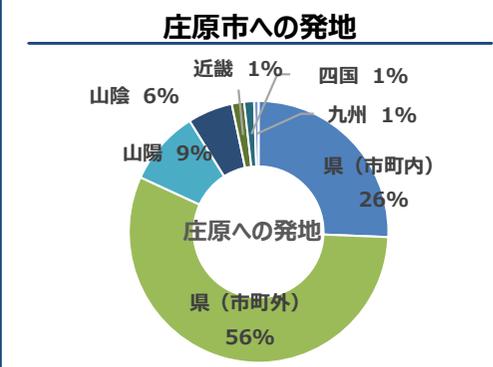
公園へのアクセスは車に限定

車	<ul style="list-style-type: none"> 中国道庄原ICより約5分 中国横断道三次東JCT・ICより約15分 	公園へのアクセスは車に限定され、公共交通機関等を利用した アクセシビリティの向上が課題
電車	<ul style="list-style-type: none"> JR芸備線「七塚駅」より徒歩20分 	
飛行機	<ul style="list-style-type: none"> 「広島空港」より車で約1時間20分 	

上記を背景に庄原市では先進過疎地対応型MaaS実証実験を行っている

市内への県外集客力・滞在時間の拡大が課題

- 庄原市（庄原地域）への発地は県（市外）の割合が最多の約56%、市内、山陽の順に多く、**県外からの集客が薄く、目的地となるコンテンツが必要**
- 市内の宿泊者は6割が1泊に留まり、家族・夫婦層がメジャー層**
- 外国人観光客は、全国規模でアジア系が増加傾向の中、**欧米系が多い**
- 来園者の周遊先は観光施設・宿泊施設など**



庄原市の延宿泊者数

泊数	人数
1泊	16,903人
2～3泊	8,932人

行き帰りの周遊先 (Top1)

行き 三次ワイナリー (観光施設)
帰り ラ・フォーレ庄原 (宿泊施設)

将来

新たな切り口×地域貢献・広域対流につながる持続的な観光振興

- Well-beingの「回復」を念頭においたヘルスツーリズムやストーリー重視のロングトレイル、アドベンチャーツーリズムなどの**旅行ニーズが多様化**
- 外国人観光客をはじめとする**宿泊を伴う滞在の拡大**や地域とのつながりを端緒にした「第2のふるさとづくり」による**再訪促進**、レガシー形成を通じ、**消費額の拡大・継続消費を確保**
- 公園は**宿泊・体験・コミュニティスペースなど多様な場を提供**し、旅行者のニーズに合わせた観光資源の発掘のみならず、**地域への交流・関与を通じた活動人口の創出につながる持続的な観光振興へ寄与する**

ロングストーリー造成事業

地域のコンテンツ同士を連携させることで周遊性を向上させ、広域観光につなげる

ヘルスツーリズムによる関与度増加の流れ

関与・進展

- 新規来訪者の開拓
- 来訪頻度の増加
- 関係人口化
- 移住者の増加
- 住民満足度の向上

アドベンチャーツーリズムの地方創生効果

マストツーリズム	アドベンチャーツーリズム
14% の経済効果が国内に留まる	65% の経済効果が国内に留まる
1.5 local jobs per \$100,000 USD	2.6 人の地域雇用を創出

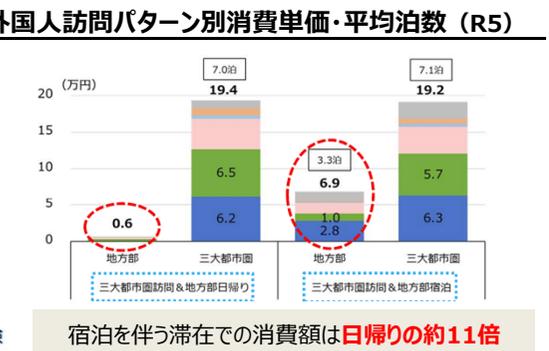
アクティビティ (自然, 文化体験) 2つ以上の要素で構成される旅行

アドベンチャーツーリズムは従来のマストツーリズムに比べ、効率的に経済効果を創出でき、雇用創出効果が高く、地方創生に寄与できる

外国人訪問パターン別消費単価・平均泊数 (R5)

庄原市で築いてきた、自然や動物、近隣者との共存・共生の暮らしの中で、知恵や経験、助け合いの心を醸成し、独自の里山文化への参加

地域住民との交流を深めつつ野菜収穫を体験 (第2のふるさとづくりの事例)



3-3 本公園を取り巻く状況・将来予測 -暮らし・Well-being-

現状

ボランティアによる継続した公園の価値向上

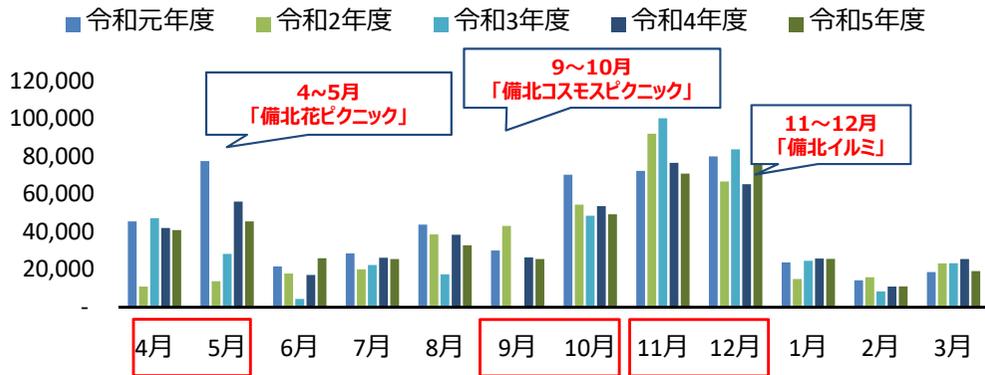
- 地域住民を主とする様々な公園ボランティアの手により様々な活動が継続実施
- 近年は北口センターエリアの無料開放を実施し、地域の情報発信や入園者の交流拡大を実施している



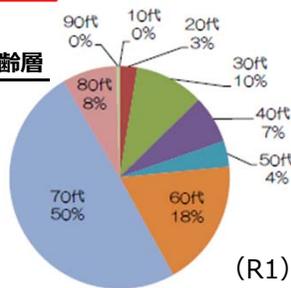
公園は身近にある何度でも訪れたい存在

- 入園者は、30～40代のが約4割を占め、年に数回訪れる来園者が約4割に上る一方、年間パスポート購入者は高齢層に集中しており、**高齢者の日常的な利用、家族層の行事・行楽利用がメイン**となっており、新たな利用層の獲得が課題となっている

月別入園者数



年間パスポート購入者の年齢層



入園者の年齢層 (Top3)

65歳以上	24%
30代	23%
40代	21%

行き帰りの周遊先 (Top1)

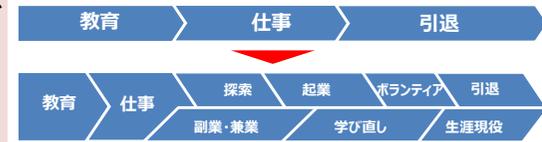
行き	三次ワイナリー (観光施設)
帰り	ラ・フォーレ庄原 (宿泊施設)

将来

地方都市での個人と社会のWell-being向上の実現

- 40代までの地方移住への関心、地方での生活重視への指向が高まっている
- 中国圏は通勤時間が1時間未満が9割以上を占め、都市と自然、労働と余暇が近傍
- 場所にとらわれない働き方の進展・余暇の充実、マルチステージ型人生への転換に対する「豊かな暮らし」の場を提供し、地域への活躍人口を創出する

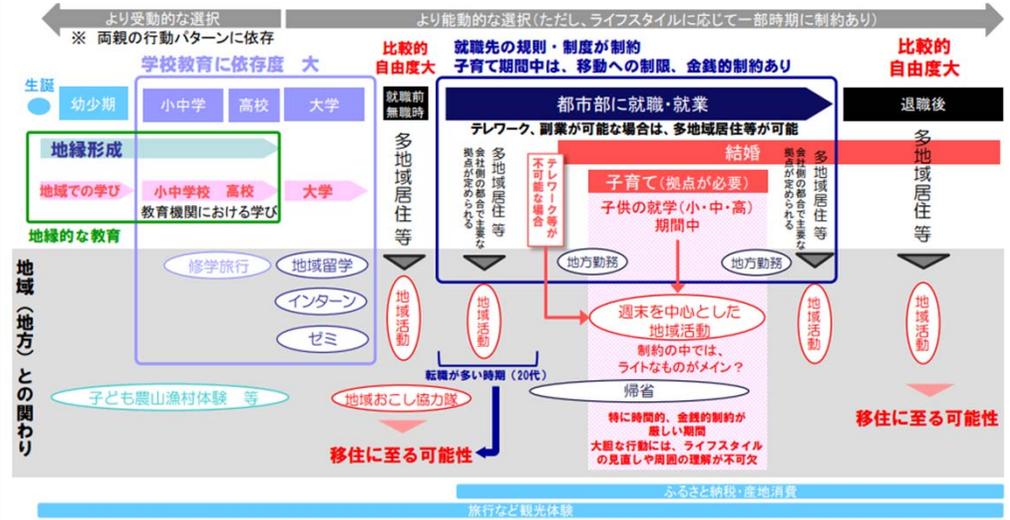
単線型からマルチステージ型の人生への転換



地方移住への関心理由

- 人口密度が低く自然豊かな環境に魅力を感じたため
- テレワークによって地方でも同様に働けると感じたため
- ライフスタイルを都市部での仕事重視から、地方での生活重視に変えたいため

ライフステージに応じた活躍人口の創出機会



ライフスタイルの多様化、マルチステージ型人生への転換により、**地域に関わる機会も多様化**していくことから、各接点において地域への惹きつけ・定着を誘発することで、活躍人口を確保

4-1 公園の現状のポテンシャルと課題、望ましい20年後のすがた のイメージ

前述の本公園の現状のポテンシャルや課題、将来の環境の変化を踏まえた、望ましい20年後のすがたのイメージを示す。

	現状のポテンシャル・課題	20年後のすがた（イメージ）	施策の方向性（イメージ）
自然・環境・文化	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 内陸・山間部の四季の変化に富んだ自然環境、公園内では希少な動植物の保全・育成 ✓ 自然を体験できる多様なアクティビティを提供 ✓ たたら製鉄や山岳信仰、里山景観・文化などの多様な文化と歴史に立地、公園内には中国地方の典型的な里山文化と伝統を再現・保存・展示・継承 	<p>【公園として継続すべきサービス等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域特有の歴史・文化の継承、活性化に寄与【今後一層伸ばしたいサービス等】 ➢ 自然環境・文化への触れ合い・体験【目指すべき地域連携】 ➢ 地域と大学・企業等連携による自然教育・実証研究の場の提供 	<p>【公園内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 滞在時間の延長に資する、もしくは新たな利用者をターゲットとした施設の更新・投資、公園の管理の質の向上 ➢ 産官学連携による実証実験、研究活動の実施 ➢ 森林環境の保護・増進による自然教育の普及 <p>【公園外】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 園内での里山風景・たたら文化継承 ➢ 地域の古民家継承・活用に公園でのノウハウ・ネットワーク活用
まちづくり・観光	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中山間地域は豊かな自然を活かした農畜産物等の食文化と生業を有する一方で地域からの転出・人口減少・高齢化が深刻化 ✓ 山陰・山陽からの動線上に位置する一方、公園への二次交通が限定的 ✓ 他府県等からの地域への集客は薄く、広域観光にはつながっていない ✓ 中国地方の外国人観光客は欧米層が多いものの、山陰・瀬戸内に集中し、山間部自体の認知度が低く、庄原市内への滞在日数も短い 	<p>【今後一層伸ばしたいサービス等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 弾力的な公園運営・高付加価値化による集客 ➢ 新たなターゲット層の獲得・圏域内の周遊・広域利用強化 ➢ にぎわい・活力の波及による園内消費の増加 <p>【目指すべき地域連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 新たな旅の切り口×地域貢献・広域対流につながる持続的な観光振興 	<p>【公園内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 公園での魅力的なイベント等の開催、新たな集客施設等への投資による集客とにぎわい創出 <p>【公園外】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ アクセス性の向上 観光振興にも寄与 ➢ 来園者の宿泊観光誘導に資する市内施設との一層の連携 ➢ 訪日外国人観光客を対象とした広域周遊ルートの促進
暮らし・Well-being	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 高齢者・家族利用、身近にある何度でも訪れたい公園である一方で来園者数は年間45万人で頭打ち ✓ 公園内ではボランティア活動、関係団体等との連携を実施、公園管理を地域が担い、公園の価値向上を図ってきた経緯 	<p>【今後一層伸ばしたいサービス等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 都市生活と自然体験が調和した魅力ある暮らしと交流の場の形成 ➢ 地方での個人と社会のWell-being向上 ➢ 誰もが安全・安心に、かつ居心地よく・快適に利用できる開かれたサードプレイスの提供【目指すべき地域連携】 ➢ 地域資源を活用した地域振興・活躍人口の創出 	<p>【公園内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 効果的なブランディング活動の実施 ➢ ボランティア活動等を通じた人材育成の促進 ➢ 移住・余暇の時間の増えた日常的利用者をターゲットとした施設の更新・投資、公園の管理の質の向上 <p>【公園外】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 市内の空き家等遊休施設等を活用したワーケーション等の新しいライフスタイルの牽引

4-3 エリアごとの取組方向性（案）①

エリアごとのポテンシャル・課題と取組の方向性の素案を以下に示す。

	ポテンシャル・課題	取組の方向性（案）
① 中入口センターエリア	<ul style="list-style-type: none"> 花の広場は春・秋・冬（イルミ）において集客の中心として活用されているが、修景にかかる維持管理費も大きく、一定の閉鎖期間が発生しており、閉鎖期間中の当該エリアの利用に関する工夫が必要 庄原の旧学校を模した特徴的な意匠のビジターセンターは園内の大きな収入源となっており、魅力向上・消費拡大が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 花修景や収益施設の充実による公園の見どころとして集客力を向上 新たな客層の獲得に向けたブランディング活動の中心として機能 <p>【継続・増強】集客機能の充実、ブランディング強化 【見直し】修景内容、ビジターセンター利活用の内容</p> 
② ひばの里	<ul style="list-style-type: none"> 中国地方における里山の風景を再現し、年間を通じた様々なイベントによる園内体験の目玉のひとつ 文化継承やボランティア活動の場としても利用されており、さとやま屋敷は質の高い管理がされている一方、利用率の低い施設もあり、施設管理と利用のバランスを図る必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史・文化の紹介機会・体験機会の充実を図り、地域の文化的資源との連携も推進 一部施設・サービスの高付加価値化による収益の拡大 <p>【継続・増強】体験コンテンツの充実 【見直し】利用率の低い施設の利活用等に関する検討、高付加価値施設への転換</p> 
③ つどいの里	<ul style="list-style-type: none"> グラウンドゴルフ、軽スポーツや大型遊具、林間アスレチックなど多様なアクティビティを提供している 一方、芝生広場・屋外ステージの大規模イベント利用率は低く、今後のニーズを踏まえた提供アクティビティの見直し、イベントの強化（イベントの幅、地域連携等）が必要 レストハウスは利用期間が限られており、収益率が低い 	<ul style="list-style-type: none"> 自然を活かした多様なレクリエーション、アクティビティの充実・集約を図る 大規模イベント等の誘致による消費拡大 <p>【継続・増強】イベント・コンテンツの充実 【見直し】アクティビティの適正化</p> 
④ 水辺の里 国兼池	<ul style="list-style-type: none"> 県内最大のため池である国兼池の景観・環境を活かしたカヌー体験や野鳥観察、フィッシングエリアとなっている一方、ウッドデッキ等の一部施設は老朽化が著しく、計画的な更新修繕が必要 水辺を生かしたアクティビティの強化や快適性の向上が必要 一部の施設の高付加価値化による消費の創出可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> 水辺のアクティビティの拡大 エリアへの滞留の向上・快適性の向上に資する施設の適正化・再投資 <p>【継続・増強】高付加価値な施設の設置 【見直し】施設・園路等の適正化</p> 

4-4 エリアごとの取組方向性（案）②

	ポテンシャル・課題	取組の方向性（案）	
⑤北入口センターエリア	<ul style="list-style-type: none"> 公園のエントランスのひとつであり、公園利用の起点となる 公園の園内消費の収入源でもある一方、2階をはじめとする施設利用率の低下が課題となっており、コンテンツや収益サービスの充実による魅力向上・消費拡大が必要 庄原市との連携を行っており、周遊観光につながるイベントやコンテンツを提供する場所として、機能強化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 集客機能・コンテンツの充実と快適性の向上を図る 地域連携・周遊観光の拠点化 <p>【継続・増強】集客機能の充実 【見直し】エントランスセンター活用内容見直し</p>	
⑥みのりの里	<ul style="list-style-type: none"> スイセンガーデンを始めとする花修景はあるが季節が限定的であり、エリアの利活用に関する工夫が必要 現在は自主事業によるグランピング施設が設置されている 	<ul style="list-style-type: none"> エリアコンテンツの強化（季節外利用の向上） <p>【継続・増強】集客コンテンツの追加 【見直し】修景エリアの内容</p>	
⑦備北オートビレッジ	<ul style="list-style-type: none"> オートキャンプ場として、宿泊拠点・アウトドア体験を提供しているが、設置から20年を経過する施設の老朽化が顕著であり、計画的な更新・修繕が必要 キャンプレジャーも多様化しており、新たな利用者層の獲得に向け、ニーズに応じた魅力的な施設の設置等も考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> 利用率・収益性に見合った施設・サービスの適正化 利用率の向上に資する再投資 <p>【継続・増強】宿泊機能・日中利用の強化 【見直し】一部廃止や更新を含めた検討</p>	
⑧いこいの森	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境の保全の実践・ふれあい機会の提供エリア カブトムシドームが自然に触れあう集客コンテンツの目玉となっているものの、期間が限定的 散策路等の利用者のための維持管理費も相応に発生しており、利用が少ない範囲について管理水準の検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 柔軟な管理水準の見直しを図る 自然環境の保全・体験に係るボランティア活動の継続 産官学連携による自然教育の場の提供 <p>【継続・増強】産官学連携による教育普及 【見直し】散策路の一部廃止・適正化</p>	
共通	<ul style="list-style-type: none"> 園内移動の快適性の向上（移動サービスの充実） 園内利用の快適性の向上（老朽化施設への対応、管理水準の見直し、利用案内の充実など） 園内利用率の向上（施設の利用率など） 地域連携の強化（広域的な利用促進など） 	<p>【継続・増強】移動サービスの充実（園内・園外アクセスの強化） サインの充実・地図・多言語対応、バリアフリー対応 効果的な広報活動の充実、地域連携機能・体制の強化</p> <p>【見直し】公園管理水準の適正化</p>	

4-2 公園管理運営の成果の確認方法

現状を踏まえ、今後の公園管理運営の成果の確認方法として以下を設定

備北丘陵公園管理運営の成果の確認方法の基本的な考え方

- 望ましい公園管理を実現するための各施策の方向性に合わせ、**取組成果が定性的に確認できるよう、目標を設定し**、将来の方向性が実現（達成）されている状態を明示する。また、**目標達成の確認方法も併せて設定**する。
- 今後は管理運営プログラムや公園管理・運営事業（業務）の募集要項等にて定量的・具体的な数値設定を行い、定期的なモニタリングを通じて進捗管理・目標達成を確認・推進していく。

公園全体と各エリア毎の目標設定イメージ

公園全体の目標（例）	エリアごとの目標（例）
<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史文化の継承 （満足度、様々な魅力的なイベント開催頻度） ● 地域・広域的な利用促進と魅力伝達 （来園者数、来園者の構成、満足度） ● 地域貢献と持続性のあるブランディング （経済効果、観光拠点（様々な魅力的なイベント開催）、情報発信頻度・効果、関係人口数） ● ○○の増強 （○○数の拡大・・） 等 	①中入口センターエリア <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域・広域的な利用促進と魅力伝達（施設利用者数、消費額、ブランディングイメージ、情報発信効果）
	②ひばの里 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史文化の継承（満足度、イベント開催頻度） ・ 消費の拡大（消費額）
	③つどいの里 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用の拡大（満足度、利用者構成）
	④水辺の里国兼池 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用の拡大（満足度、利用者構成）
	⑤北入口センターエリア <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域貢献・ブランディング（施設利用者数、消費額、情報発信頻度・効果、関係人口数）
	⑥みのりの里 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用の拡大（満足度、利用者構成）
	⑦備北オートビレッジ <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用・消費の拡大（満足度、利用者構成、利用率、消費額）
	⑧いこいの森 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域貢献（教育・研究への寄与、情報発信効果、関係人口数）

（ ）内は目標充足度を把握するために用いる指標を例示

本日の第1回懇談会においては、特に以下のポイントについてご意見を賜りたいと考えております。

○本公園の現状のポテンシャルと課題、望ましいすがたについて（⇒ P.18）

- 本公園を取り巻く状況について、追加の視点や確認しておくべき動向等についてのご意見

○本公園の望ましいすがたに向けた管理運営の方向性について（⇒ P.18～22）

- 各エリアや公園全体の管理運営の方向性（案）へのご意見
- 上記管理運営の成果の確認方法（目標の設定）へのご意見

5-2 今後の検討の進め方

今後の懇談会では、より具体的な（例えばエリア毎の）取組施策の方向性・実現に向けた進め方を検討していくことを想定。
次回第2回懇談会では、管理運営ビジョンの中間報告を提示の上、ご意見をいただくことを予定。
なお、懇談会后、議事要旨と当日資料を整備局HPにて公表予定。

管理運営ビジョンの構成要素（案）

構成要素（案）	記載事項概要（案）
ビジョンの位置づけ・目的	ビジョン策定の目的・狙い、既存計画との関係、ビジョンの利用ステップ
現状分析・課題	公園の概要・特性・利用状況、公園周辺の状況、ニーズ、将来課題 等
コンセプト	ターゲット、ブランディング、コンセプト・ストーリー 等
ビジョンの実現に向けた進め方	推進体制、ビジョン関係者の役割分担、ビジョン更新の仕組み 等
取組施策	ビジョンの実現による効果・目標・発展イメージ、取組方針・施策の方向性 等

今後の予定

今後の予定	開催時期（予定）	主な議題（特にご意見をいただきたい内容）
第2回懇談会	10月中旬 併せて公園現地 視察	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジョン実現による効果・目標・取組の方向性 ・ 各エリア毎の取組施策 ・ 管理運営ビジョン（中間報告） ・ ビジョンを更新していく仕組み 等
第3回懇談会	12月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理運営ビジョン（案） ・ 管理運営ビジョン策定までのスケジュール 等